

経済透視図

113

自動運転技術が大きく進展している。現在、運転手不足や交通渋滞の増加、環境汚染などが社会課題になっていくほか、減少傾向ではあるが毎年世界で100万人以上の交通事故死者が発生している。自動運転技術の普及に伴い、エコドライブやルート選択の最適化、安全運転が実現されることは、これらの課題

自動運転市場の動向①

を目標していることも、L4（特定条件下における完全自動運転）に対する取り組みを進めている。

る点だ。無人で走行可能なL4以上の自動運転こそが、長年我々が思い描いてきたものと合致する。

また、現状では国を問わずオーナーカー（人間と機械の情報交換インターフェース）が自由に自動運転を利用できるようにするためには、リテイル技術⑤システムがアクセルやブレーキ、ステアリングなどを操作する技術である。

レベル4実用化は5年後



窪田正吾

SMBBC日興証券
プライベート・
キャピタル・
ソリューション室長

L4の自動運転が可能になった。海外では世界初となったドイツや米国（ただし州ごとに可否を決定）、中国、韓国などがL4の自動運転を解禁しており、

重要な技術は大別して5つ存在する。①車両の位置や周辺状況を認識する技術②データを解析して正しく判断する技術③（L3までは）ドライバーのモニタリ

自動運転の実現に必要な技術は5つ存在する。①車両の位置や周辺状況を認識する技術②データを解析して正しく判断する技術③（L3までは）ドライバーのモニタリ

無断転載・複写禁止